

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 子どもの成長は細かく時期区分されていて、子どもの成長・発達はとても複雑だと思った。幼児期の自我の確立は、将来の社会性を育てると知り、小さい頃の経験が成長・発達に重要なのだと勉強になった。子どもの根本にあるべき「愛着の築き」は親からの無条件な愛、スキンシップが必要だが、十分に受けられない子どもがいることも知った。親でなくとも理解してくれる大人がいると安心できるのだと知り、支援員として、子どもを理解し尊重する大人になりたいと思った。
- ◆ 子どもの発達の進度や進み方には個人差があるということは分かっていたつもりでしたが、普段「〇年生なんだからできるでしょう」という考えが常に頭にある自分がいました。今回この講義を受け、発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら育成支援を行うことの大切さを学びました。子ども一人ひとりの良さにしっかりと目を向けていきながら、見えないところにも心の目を注いでいけるよう、しっかりと寄り添った支援をしていきたいと思いました。
- ◆ 子どもは、遊びと生活から発達し、学習したりお手伝いなどを経験しながら成長していく。その発達途中で失敗したら一緒に残念がったり、悩んでいるときは肯定的に受け止め、支えてあげたりできるように支援していくことが大切だと学びました。また、「みんな違ってみんないい」を常に念頭に置き、発達の個人差を踏まえて育成支援していきたいと思いました。親と同じように、私たちもいつも笑顔を見せていようと思います。
- ◆ 遊びが子どもの発達において重要な活動であるということを学んだ。実際に支援の現場でも遊びを通して感情や思考力、自身や他者への理解が育っていると感じる場面が多い。支援員が指針にあるような遊びの支援を行うためには、子ども一人ひとりの心身の状態を把握できていることが重要だと学んだ。そのために、子どもたちの表情や声のトーンなどをしっかり観察したいと思う。
- ◆ 支援者として子どもが希望を持って生活出来るように一人ひとりの特徴を理解し、その個性を尊重しありのままを受け止められていただろうかと、反省しなければならないことがたくさんありました。子どもの行動の背景を理解するということについて、ただ見てただけで理解していなかったのではないかと、固定観念にとらわれて個性に寄り添った支援ができていなかったのではないかと深く考えさせられました。